

2022年11月18日

各位

会社名 ファーストブラザーズ株式会社
代表者名 代表取締役社長 吉原 知紀
(コード番号：3454 東証プライム)
問合せ先 取締役経営企画室長 堀田 佳延
(TEL. 03-5219-5370)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績の動向等を踏まえ、2022年1月12日に公表した2022年11月期の業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 通期連結業績予想数値の修正 (2021年12月1日～2022年11月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	24,900	2,880	2,010	1,300	92.70
今回修正予想 (B)	14,220	1,710	1,170	1,050	74.88
増減額 (B - A)	△10,680	△1,170	△840	△250	—
増減率 (%)	△42.9	△40.6	△41.8	△19.2	—
(ご参考) 前期実績 (2021年11月期)	26,685	4,940	4,379	2,795	199.34

2. 修正の理由

当社グループは、中長期的に安定収益が見込める優良な賃貸不動産ポートフォリオの積み上げを進めており、その残高は当第3四半期末時点において643.5億円(簿価)に達し、それに応じて賃貸粗利も増加(当第3四半期累計期間は昨年同四半期比6.5%の増加)しております。

一方、賃貸不動産ポートフォリオの入れ替えとして物件売却を進めている中、当期中に売却を予定していた一部の賃貸不動産の売却が来期以降にずれ込むことになったため、売却売上及び売却粗利が当初計画を下回る見通しとなり、その結果、売上高及び各段階利益とも前回発表予想値を下回る見通しとなりました。

なお、賃貸不動産の売却売上及び売却粗利は賃貸売上及び賃貸粗利に比べ大きく、当社グループの

期間損益は売却の多寡によって影響を受けますが、賃貸不動産ポートフォリオの残高及び含み益(※)は増加しており、当社グループの潜在的収益力は高まっております。当社グループは、今後も、含み益のある賃貸不動産の売却により売却粗利を獲得しつつ、新たな賃貸不動産の取得原資として活用することでポートフォリオ全体を拡大させるとともに、新たな事業領域である宿泊施設等のオペレーションにも注力し、持続的な成長を目指してまいります。

(※) 簿価と不動産鑑定評価額またはそれに準ずる評価額との差額であり、当第3四半期末時点における含み益は129.9億円であります。

3. 配当予想

2022年11月期の配当予想の変更はありません。当社の1株当たり年間配当金は、2023年2月上旬に支払予定の期末配当金30円00銭となる予定です。

※上記の業績予想数値につきましては、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以上